

# 特定非営利活動法人エムアクト 設立趣旨書

～私たちは、医療×IT×患者本意の実現を目指し、医療・ヘルスケア分野における問題や課題をITを用いて解決するために活動を行っています～

「患者本位」と「患者本意」という言葉があります。前者は、患者の立場にたつてという意味を指し、医療機関の理念などでよく見かける言葉です。しかしながら、この患者の立場に立つてとは、体現することは非常に難しいことであり、実際に病気を持つ方からすると、心のどこかで医療従事者や健康人にはわからないと思っていることが少なくありません。つまり、そこには患者と医療従事者、患者と健康に気遣うことなく過ごす人達とのギャップがあり、そもそも「患者本位」という言葉自体がそれを物語っています。この壁を埋めることは非常に難しい現実があるのです。

このことを踏まえ、我々の団体では、「患者本位」ではなく「患者本意」という世間ではあまり使われていない造語を用いています。本意とは、本当の気持ち、本来の意思、本心などを表し、患者が本当に求めているリアルな声に基づき、実際に一緒になって、課題を解決していくことを目指しています。

私たちは、このような医療やヘルスケアにおける課題を解決するためには、これまでの一方通行の医療や介護福祉サービスの提供体制では問題があると思っています。つまり、サービス提供側、サービスを受ける側、その間で活動する企業や様々な人々や団体、自治体などが、皆で考え、協力し合う体制が重要なのだと考えています。そして、皆の協力体制の具現化ツールの一つとして、ITというものがキーになるのではと考えています。

私たちはまず、病院から退院した患者の生活に着目し、これまで医療機関が介入できなかった自宅での生活をITを用いてサポートすることで、その質を向上させるアプローチに着手していきます。そして、その第一弾として、オストメイトなびプロジェクトを遂行します。オストメイト（人工肛門保有者、人工膀胱保有者）を対象としたスマホアプリケーションを開発し、無料配信することで、情報の収集と配信を行うプラットフォームを実現、彼らが抱える悩みや不安を解決する新時代の患者サポートシステムを構築します。そして、この開発には患者側からの視点と医療従事者からの視点を取り入れ、更に関連する企業のコミットや自治体のコミットが促せるデザインを構想することで、新たな医療・ヘルスケアの在り方を創造します。

あるシステムが社会に根付くためには、その仕組みに関わるすべてのステークホルダーの意味づけが重要です。私たちが行う活動では、一つの目的に向けて様々な団体が皆で一つのシステムを構築していく必要があるという意識を構築していきます。各方面から様々な団体の参画を促します。そして、私たちはその調整役（コーディネーター）として、機能したいと思っています。このように患者の生活の質をテーマに活動を行うためには、公益性は非常に重要です。加えて、対組織間での活動を広く行っていくためにも、任意団体ではなく特定非営利活動法人として活動する必要があります。

より良い社会の構築のため、患者の生活の質向上のため、新時代の医療システム構築に向けたプロセスの具現化のために、今後も活動に邁進していきたいと思っています。  
ここに特定非営利活動法人エムアクトを設立したいと思います。

2015年 8月 1日

法人の名称 特定非営利活動法人 エムアクト  
設立代表者 神戸 翼